

14年間移り変わっていく自治会

千葉県八千代市 グリーンハイツ八千代自治会 会長 片岡直美

はじめに

夫が自治会長に就任9年、その間裏で活動をサポートしてきました。5年前に自身で会長に就任し、サポート時代からの気づき、女性目線だからこそ出来たこと、これまでの活動を引き継ぎながらも、マンション内の子どもの成長と残された親世代の古い問題など時代の変化に合わせた活動を行っています。

広報を通じてマンション自治会の魅力発信や防災活動に力を注いでおり、地域自治会から見学に来るなど、これまでの活動が認められるようになりました。

自治会組織の結成

マンション竣工当時、親同士が子どもたちのために子ども会を結成し、「夏まつり」「ラジオ体操」「クリスマス会」「餅つき大会」など開催し賑わっていました。

その後、マンションの棟数が3棟から8棟になり、居住者が急増し、自治会組織が結成されました。「子ども会」は小学6年生になる子を持つ親が自治会組織運営のサポート「夏まつり（子ども用ゲームブース）」「ラジオ体操」を行ってきました。自治会組織は引き継

いだイベントだけでなく、「プラネタリウム」「いちご狩り」「書き初め会」を企画し行ってきました。特に「夏まつり」はマンション内だけでなく、地域の子どもたちが押し寄せる一大イベントとなりました。



コロナ前、子どもが多かった頃の夏祭り





キッチンカーに並び様子



大人も楽しめるマルシェでの演奏も地域つながり

しかし、コロナ禍以降、子ども向けイベントの参加率が低くなり、3年前、ついに子ども会が消滅…。

子どもだけでなく、 大人も楽しめるお祭りに

夏開催のお祭りは、役員が準備段階から熱中症の危険があり、コロナ禍を転機に、秋に変更し「グリハでマルシェ」と名前を変えて開催。バンド演奏やキッチンカーを増やし、大人が楽しめるようにしました。昼間の開催にしたことで良かった点は、キッチンカーでの販売をメインにしたことで、役員も家族でお祭りを楽しめる時間が増えました。片付けも当日に終了出来て役員の負担を軽減しました。

当マンションも28年が経過、子どもが成長し、親世代だけの世帯が増加。朝と夕方にはデイサービスの送迎を多く見かけるようになりました。

立ち寄りサロンの開設〜高齢化対策

マンション特有のプライバシー重視が高齢になると逆に足かせになり、困ったことが起きて誰にも気づいてもらえない、困りごとの相談場所がわからない、などの課題が出てきました。

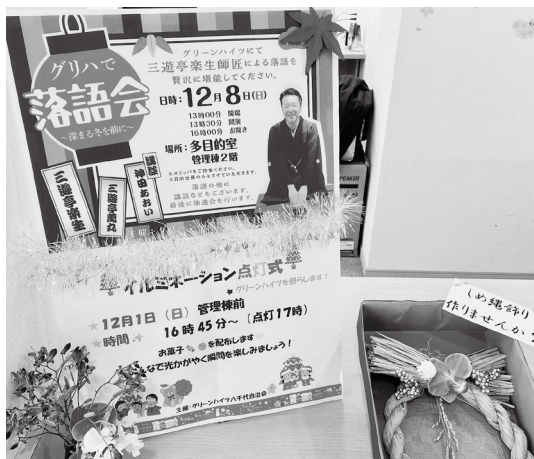
題が出てきました。

そこで、会長に就任した5年前、当時から感じていた高齢化への対策として相談できる場所「立ち寄りサロン」を開設しようと考えました。4年前、まずは管理組合に場所の提供をお願いしました（マンションには自治会専用の施設はありません）。1年は希望した施設でのサロン運営許可が出ませんでした。

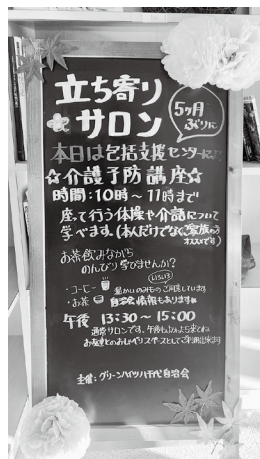
敷地内の別の施設を借りて最初の一步「みんなの居場所、サロンが出来た！」と自治会広報へ定期的に掲載しました。季節ごとに飾り付けを行い、ゲームなど楽しんでもら



囲碁サークルの様子



立ち寄りサロンのお知らせ



立ち寄りサロンの看板

い、同じ棟の方同士を紹介し繋がりを作りました。大きな成果は、サロンに來られた男性方で囲碁サークルや麻雀、将棋サークルを結成し、孤独になりがちな男性が家から外に出るきっかけを作れたことです。次の一歩は、おしゃべりが苦手な方向けに、勉強など目的に來てもらうことでした。

不定期ながら講座として、地域の薬剤師



下) サロンで開催のワークショップの様子 上) ワークショップでは「ランタン作り」も開催

を招き「お薬について」や、ファイナンシャルプランナー（当役員の）「相続・争族」を行いました。

希望していた施設でのサロン開設の交渉を続け、自治会が使用可能になるための規約改定が行われ、2023年6月より現在の場所にサロンを開設することが出来ました。

男性役員による数量限定、挽きたてコーヒーサービスを開始し、好評です。

翌年1月には、警察署の生活安全課による「振り込め詐欺防止」「最近の詐欺」について講話、6月には包括支援センターによる「認知症予防」講話や脳トレ、運動を行いました。役員が講師になり、ワークショップでは「ランタン作り」、「しめ縄飾り」などを開催し、多世代の参加となりました。

今ではサロン施設を利用し、アクティブシニアが毎週「元気体操」を行ない、その輪が広がっています。

このように少しずつですが、地域で周知され、サロンを開きたい自治会や、民生委員が見学に來られ、繋がりを構築しています。

防災・災害時対策..

① 防災手引き作成、② 安否確認練習

お隣の人を知らない、避難所行けばいいの？ など情報を知らない(古いまま)の方も多くいられます。現在は、自宅が安全であれば避難所へ行かずマンション内に留まる「在宅避難推奨」がされています。

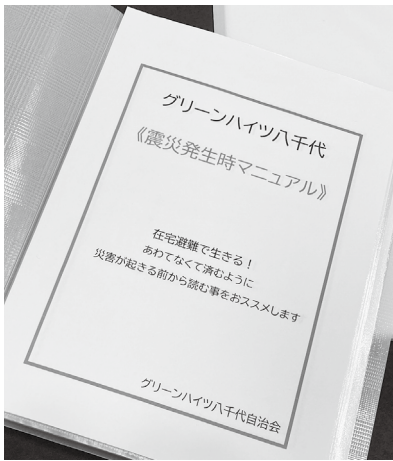
そこで自治会では、家庭で備えてもらうために防災士を取得した役員が「防災手引き」を作成し配付しました。なお、今では防

災害が7名在籍しています。毎年9月に管理組合、自主防災会と合同で全居住者対象に安否確認練習を行っています。安否確認はOB役員も参加、いざという時に動ける経験者を増やしています。

防災・災害対策…③防災イベント

子どもが多かった時代はパペットや、ミニチュアを使用しながら子ども向けの防災イベントを開催してきました。子どもがイベントを体験し、親に話して備えてもらえるようにしました。

8年前からは、大人向けの本格的な防災イベントにシフトしました。住民の方へ知識のレベルアップにつながるよう、同じ住民である役員が防災テーマを考え、手作りの展示作成、説明を行っています。



防災士役員作成オリジナル手引き

例えば、袋に入れ湯煎で作る防災メニュー開発と試食。テーマ「水」では階段を使用して水を運んでもらう体験、水を極力使わない備蓄品や、100均防災グッズ展示、防災士（役員）がAEDを使用した救命講習、毎年携帯トイレの使い方をしています。企業にも声をかけ、(株)大多喜ガス「ガス復旧方法」や(公財)日本公衆電話会「171かけ方」など各ブースを楽しく見てもらえるようにスタンプラリー形式で行いました。こうした取り組みには地域からの見学もありました。

能登半島地震の年には、一番困った「トイレ



安否確認練習開始前



防災イベントの様子

レ」をテーマに、トイレに関する（排泄後の臭いや処理方法まで）全般に説明しました。今年は「各家庭で安全に在宅避難」を企画中です。

コミュニティが強いと災害時にも強い！イベントはそのきっかけづくりで必要なことと考えています。

これからも、楽しみながら顔が見えるコミュニティづくりを行っていききたいと思えます。



サンワチャンネル



J:COM